今大会を顧みて

日本教職員バドミントン連盟
副会長　稲石　一雄

まず、３年ぶりに大会を開催できたこと、そして無事に終了できたことを喜ぶとともに、実施に尽力していただいた愛媛県協会、県教職員連盟及びすべての関係者の皆様、並びにすべての参加選手の皆様に心より御礼申し上げます。

今回はＪＥＦ創立60周年記念の大会と銘打って開催しました。開会式では千葉県の田中康二選手が連続55回出場で表彰を受けました。60年の歴史の中で、最多にして最長の連続出場記録です。

続くレセプションでは、持ち越しとなっていた周年行事を同時に行う準備をしていました。ところが愛媛県での感染拡大の状況を受けて飲食ができないことになりました。そこで式典のみ行うことになりましたが、銭谷専務理事をはじめ多くの関係者の出席をいただき賑々しく進行することができました。専務理事のご挨拶に始まり、愛媛県知事そして松山市長の歓迎のことば（ともに代読)、記念功労者表彰、協賛各社への感謝状贈呈と滞りなく進んだところで、愛知県協会から髙橋会長へ「頌功」が贈呈されました。これは式次第にはないサプライズで、会長自身びっくりして感激していました。(「頌功」については自分で調べてください。）その後、歸山理事長の手締めで閉会となりました。

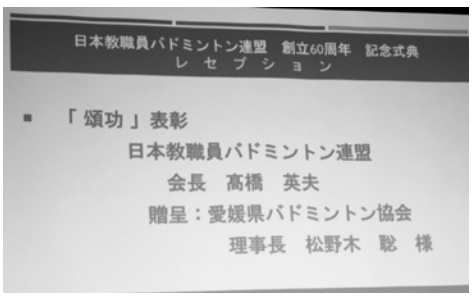
60周年記念功労者は次の方々です。

特別功労賞	関場　　武		前連盟会長
功労賞	田部井秀郎	埼玉県	県連盟役員32年
	阿部　秀一	岡山県	県連盟役員22年
	寺西　　了	石川県	県連盟役員18年
	向坂　健二	愛知県	県連盟役員16年
	前田　正志	ＪＥＦ	連盟理事17年
	関根　　忠	ＪＥＦ	連盟理事15年
	平井　克英	ＪＥＦ	連盟理事13年
	須田　和裕	ＪＥＦ	連盟理事11年

連盟発展のためにご尽力をいただき、ありがとうございました。

田中康二選手

レセプション



さて、試合についてです。ID カードを発行し、これが無いと家族でも体育館に入れませんでした。選手は毎日、体調を記録したカードを提出し、コート以外では必ずマスクを着用していました。選手同士あるいは主審との握手はせずに、勝者サインも名前の確認だけでした。試合が終わると審判台と線審の椅子は確実に消毒をしていました。このように新型コロナ対策を徹底して運営をしていました。

団体戦においては、一般男子は栃木県が初優勝、一般女子は石川県が連覇しました。成壮年男子は千葉県が６大会ぶり３度目、成壮年女子は東京都が２大会ぶりに３度目の優勝をしました。ハイパーエイジは埼玉県が初優勝です。埼玉県は団体各種目において初めての優勝です。埼玉県チームは最年長で 60 歳代の田部井選手が最年少 30 歳代の吉田選手と組み合計年齢 100 歳以上の部に出て、これが決勝点になりました。オーダーの妙です。

個人戦はさまざまな種目で新しいチャンピオンが誕生しました。一般の部は全体的に、数年前よりスピードが上がっているような気がします。30 歳以上の部もスピードのある選手が多く見られます。シングルスとダブルスで、別の年代に出られるようになったことが影響していると思われます。

年代別種目では多くの選手が年代を上げてきて、３年という年月を感じました。皆さん３年ぶりの旧交を温めつつ、楽しそうにプレーをしていました。年齢、男女を問わず多くの種目で１位と２位の選手が一緒に写真を撮っている姿が印象的でした。最終日には地元愛媛県の秋山選手が 50 歳以上男子単で優勝、その結果、総合第 10 位と健闘しました。

優勝者には副賞が渡されます。今回は地元の菊間瓦の鬼瓦をモチーフにした大皿でした。迫力があります。そして１位から３位までに、日本協会のメダルのほかに菊間瓦で作ったメダルが渡されました。メダルについては事前に知らされていなかったので、選手はみんな大喜びでした。「先に知っていたらもっと頑張ったのに・・・」（選手の心の声！？）

会場には地元産物の店や宅配業者のブースがあり重宝しました。愛媛県の皆様には心温まるおもてなしをしていただき、大変ありがとうございました。文頭にも書きましたが今回の大会開催について、愛媛県をはじめすべての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

銅　　銀　　金